

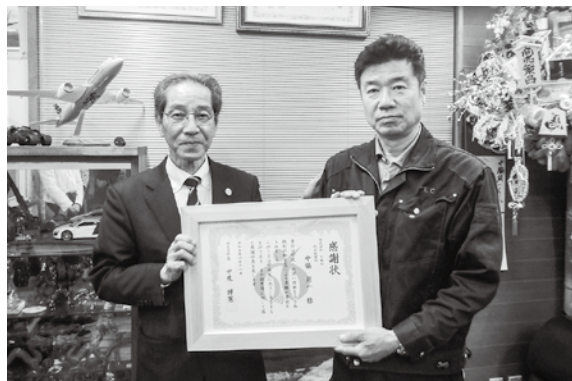


町内企業16社が参加した企業説明会

高校生へ町内合同「企業説明会」開催

窪川高校、四万十高校の1～2年生を対象とした、町内企業が参加する「企業説明会」が1月24日、農村環境改善センターで開催されました。

この説明会は、各企業の事業内容や魅力などを直接生徒に伝え、生徒自身の見識や進路の選択肢を広げてもらおうと毎年開催しています。参加した企業の担当者は「地域にある企業を知ってもらういい機会になった」と話し、また、参加した生徒たちは、企業担当者の話を真剣に聞き、時には積極的に質問するなど、「四万十町で働きたい」と思うきっかけとなったようです。



代表取締役 中脇周一氏（右）へ感謝状を贈呈

（株）中脇組より寄付をいただきました

株式会社中脇組（埼玉県八潮市）より、昨年度に引き続き、企業版ふるさと納税による寄付があり、1月11日に森副町長より代表取締役である中脇周一氏へ感謝状の贈呈が行われました。

いただいた寄付金は、令和7年度より学校統合によって誕生する十和小学校ならびに校名を十和中学校へと改名する2校の校旗の購入や、三島キャンプ場にあるバンガローの空調設備の整備の他、地域のイベントなどで使用する備品類の購入に活用させていただきます。



取締役頭取 海治勝彦氏（右）へ感謝状を贈呈

（株）高知銀行より寄付をいただきました

株式会社高知銀行（高知市堺町）より、昨年度に引き続き、企業版ふるさと納税による寄付があり、1月14日に中尾町長より取締役頭取である海治勝彦氏へ、感謝状の贈呈が行われました。

いただいた寄付金は、地域の魅力を生かし、地域を支え、発展させる人材を育む「人材育成推進事業（四万十塾）」に活用され、高知大学との連携による取り組みや、産学官連携事業への補助金として、活用させていただきます。



協定を締結した日本ムービングハウス協会 佐々木信博理事長（右から3人目）

「応急仮設住宅建設に関する協定」締結

大規模災害時の広域避難の協定を締結している高幡5市町（須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町）と、（一社）日本ムービングハウス協会（北海道札幌市）による、「応急仮設住宅（移動式木造住宅）の建設に関する協定」の締結式が、1月15日、中土佐町役場で行われました。

この協定により、災害時に協定自治体から同協会へ移動式の応急仮設住宅の建設を迅速に要請することが可能となり、被災者の生活の基盤をいち早く安定させることが期待されます。



協定を締結した大阪府泉佐野市の千代松大耕市長（右）

泉佐野市と「ふるさと逸品協定」締結

四万十町と大阪府泉佐野市が、互いの特産品をPRし、地域経済の活性化や交流を推進しようと「ふるさと逸品協定」を締結し、その締結式が、1月30日、四万十町役場で行われました。

この協定は、泉佐野市で市議会議員を務める町出身の大庭聖一氏の紹介によるもので、四万十町の仁井田米などの特産品と泉佐野市の水ナスといった地域を代表する逸品の魅力を、互いに協力し全国へと広く発信していこうというものです。

今後、イベントやPR活動を通じて、両地域のつながりをさらに深めていくことを目指していきます。



協定を交わした川田弘人校長（左）と鄭純亮校長（右）

窪川高校が韓国の高校と「国際交流協定」締結

四万十町と平成24年に「友好交流協定」を締結している韓国高敞郡^{コチャン}（チョンブクインゴンチョン）の全北人工知能高等学校と窪川高校が「国際交流協定」を締結し、その締結式が窪川高校で行われました。

本協定には、両校の教員と学生がオンライン授業を通じて互いの言語や文化について理解を深めることや、相互訪問を通じて国際的に活躍できる人材育成を目的とした国際交流プログラムの実施などが記載されています。

協定期間の2年間、対面での交流によるさらなる友好関係の構築が期待されます。



ジョウロを使った初めての水やり体験

「人権の花運動」で保育所へ花を配布

「人権の花運動」は、人権啓発運動の一環として毎年実施しています。子どもたちが花を協力して育てることで命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさや思いやりのある心を体得していくことを目的としています。

本年度は、窪川高校の生徒が種をまいて育てたパンジーの花を、町内12か所の保育所などへ配付し、花のお世話を園児たちに引き継ぎました。

早速、園児たちはジョウロを使ってきれいに咲くパンジーの花に水やりをしていました。

